

社会へ開け 念願のカフェ

名古屋市中村区にある豆腐屋に小さなカフェがオープンした。豆腐を生かしたメニューを提供するのは障害者たち。障害者支援に取り組みNPO法人「ひょうたんカフェ」が運営する施設で、名前通りの「カフェ」が8年越しに実現した。誰もが気軽に集まれる場に……。その夢にまた一歩近づいた。

中村区のNPO、8年越しオープン

25日に本格的にオープンした。2畳ほどの広さにテーブル2台と丸いす6脚。店先には4人が座れるオープンテラス。豆腐や織物づくりでにぎわう施設の一角で、施設利用者や近所の人たちがくつろぐ。



そろいの帽子やエプロンで接客する障害者たち。「自分たちが作ったものを食べてもらえるのがうれしい」―名古屋市中村区砂田町2丁目

カフェのメニューは、コーヒーのほか、おからドーナツや豆乳ラテ、豆腐パフェなど。すべて障害者たちの手作りだ。宮城県産大豆の豆乳を使うなど材料にもこだわる。「障害がある人による手を抜かない丁寧な

障害者らいきいき交流

ものづくり。それが強みです」と同NPO法人代表理事の橋本思織さん(45)。

NPO法人は2006年に設立。手織りの「さをり織り」を通じて障害者の社会参加と自立を支援するデイスーパービスとして活動を始めた。名前は中村区のシンボル「ひょうたん」と「カフェ」のように交流できる場所でありたいとの思いを込めて付けた。

障害者の働く場をつくる。08年には区内の別の場所に豆腐店を開設。手作り豆腐の製造を手がけ、店頭だけでなく移動販売もしながら地域との交流を図ってきた。6年目を迎え、事業が軌道に乗ってきたことから、さらに地域とのつながりを深めようとカフェの開店を決めた。

昨年、空き倉庫を活用して、さをり織りの作業場と豆腐店などが一体となった施設を新設。そこにカフェも開店して交流拠点に整えた。

豆腐やドーナツを作る厨房では、知的障害がある4人がスタッフと一緒にせわしく動き回る。1日に作るドーナツは約100個。働いて4年目という吉田光将さん(21)は「仕事が増えて大変になったけどやりがいがある。みんなの個性を生かしたすてきなカフェにしたい」と笑顔で汗をぬぐった。

カフェを始めたことで、障害者たちに変化が出てきたという。「もてなしの心が芽生え、外とつながる力が強くなっている」と橋本さん。また小さなカフェだが、人が集まり、福祉やものづくりの情報を共有し、発信する空間にしているのが目標だ。「念願のカフェがかない、NPO法人設立時の原点に立ち戻れた。障害者の持てる力を地域や社会に生かしていきいたい」

カフェは平日午前10時半〜午後5時。土曜は不定休。
(中野龍三)